

公開保育を活用した幼児教育の質向上システム

ECEQ コーディネーター報告書

基礎情報内容	ECEQ 実施園情報
法人名	学校法人 亀ヶ谷学園
理事長名	理事長 亀ヶ谷 忠宏
園名	幼稚園型認定こども園 宮前幼稚園
園長名	亀ヶ谷 忠宏
担当者名	役職名 園長 氏名 亀ヶ谷 忠宏
住所	〒216-0044 神奈川県 川崎市宮前区西野川 2-24-18
電話番号	044-766-7907
FAX 番号	
メールアドレス	
園児数	375 人
学級数と人数	年長 4 学級 117 名 / 年中組 4 学級 121 名 / 年少組 5 学級 128 名 満3歳組 学級 名 / 2歳児 名 / 1歳児 名 / 0歳児 名
保育者数	27 人
職員数	3 人

基礎情報内容	ECEQ 実施園情報
法人名	学校法人 亀ヶ谷学園
理事長名	理事長 亀ヶ谷 忠宏
園名	幼保連携型認定こども園 宮前おひさまこども園
園長名	亀ヶ谷 忠宏
担当者名	役職名 園長 氏名 亀ヶ谷 忠宏
住所	〒216-0044 神奈川県 川崎市宮前区西野川 2-22-5
電話番号	044-872-7903
FAX 番号	
メールアドレス	
園児数	90 人
学級数と人数	年長組 1 学級 16 名 / 年中組 1 学級 21 名 / 年少組 1 学級 21 名 満3歳組 学級 名 / 2歳児 11 名 / 1歳児 10 名 / 0歳児 6 名
保育者数	9 人
職員数	3 人

ECEQ メイン コーディネーター名	後藤 光葉				
ECEQ サブ コーディネーター名	佐伯妙有	久富多賀子	櫻井喜宣	山崎和子	江津秀子
	森本嘉子	櫻井つたえ	石井稔江	安藤広子	長澤英子
研修履歴	STEP1	2019年 9月	5日		
	STEP2	2019年 11月	8日		
	STEP3	2019年 11月	8日～		
	STEP4	2019年 11月	21日		
	STEP5	2019年 11月	21日		

STEPを通して

1. STEP1やSTEP2で抽出された自覚的な良さや課題

今回の公開保育は『主体的で、対話的で、創造性を大切にしたい保育を目指して ～チーム保育を意識しながら～』というテーマを掲げられていた。この時期の子どもたちに遊びや生活の中で主体的に行動し、仲間と積極的に関わりながら創造性を発揮し、行き活きと輝いて欲しいと園としての願いもあげられていた。そのための環境のあり方、その環境を保育者がそれぞれの保育の中にどう取り込んで創造的に生かしているのか、などを保育者は意識し、保育の組み立てをされているようだった。

また、認定こども園 2 園が隣接する中で、保育者同士の連携やチームで関わる保育のあり方を模索しながら、日々の保育を展開されている。園が2園になったことで、スタッフの人数も増加し、宮前幼稚園・おひさまこども園として目指す保育感が共有できているか、という課題を持たれていることも感じられた。

Step 2 では、年間の教育目標である『わくわく 響き合える豊かな心を持った子ども』を再確認し、学年ごとに今の課題・さらに取り組みたい点などを語り合う場となった。大きな園であるために、保育者の人数も当然多く、保育者間での情報共有や保育の思いを伝え合うこと時間も大切なポイントであることも感じられた。

ワークを進めていく中で、下記の点についての意見が多々出てきていた。

園の自然に恵まれた環境を十分に生かしているのか？

豊かな素材との出会いをさらに深めていく方法がもっとあるのでは無いか？

子ども自身が何に「わくわく」しているのか？「わくわく」するとはどういうことなのか？

一人ひとりの「わくわく」を大切にできているのか？保育者自身が「わくわく」できていないのではないのか？

こども同士の「響きあい」をもっと深めるためにどうしたらよいか？

「やりたい」を保障すること、「安全面」の対策は？

行事に追われてしまう部分と一人一人の遊びの保証をどう考えるか？

2. STEP4実施時の問い又は課題等(公開保育当日にECEQ実施園が示した「問い」等を記載)

各学年の問い(当日は、これとは別に、クラスごとに2つの問いも示されていた)

《おひさまこども園》

乳児(おひさまこども園0, 1, 2歳児)

◎子どもたちが自由に探索でき、感性が育まれる環境や、そのための保育者の応答的なかわりを感じられたり、気づかれた点はありますでしょうか。

幼児(こども園3, 4, 5歳児)

◎異年齢の子どもたちの豊かなかかわりが生まれるような、工夫や配慮がありましたら教えてください。

《みやまえ幼稚園》

年少

◎表現することがより楽しいと感じたり、保育者や友だちとともに喜びを味わったりするためには、どのようなかかわりをされていますか。

年中

◎保育者はお互いの思いに気づけるように仲介したり、周りの子ども巻き込んで一緒に考えたりしています。皆さんの園ではどのようなかかわりをされていますか。

年長

◎自立的に行動し、秩序のある生活の心地よさを感じたり、仲間と協力することの喜びを味わったりしてほしいという願いを持っています。これまでの園生活を通して生活全体の見通しを立てられるようになり、年長ならではの当番活動に意欲的に取り組んだりする姿が見られるようになってきました。更に深めるためには、どのようなことを配慮し、子どもに伝えていますか。

3. STEP4の分科会における外部から見た良さや課題

- 季節を感じられる豊かな室内外の丁寧な環境で過ごせることで、毎日の登園が楽しみ「わくわく」につながっている⇒五感をフルに動かし、触れたり、発見したり、試してみたり、そのような経験ができるような環境は保育を豊かにするだけでなく、遊びが豊かにもなる
- 作品を展示する・続きができるなど、継続的に活動できる工夫がされ、クラス全体にも共有する場面が見られた⇒その日の活動・取り組みから次の日の環境構成や素材の準備をしている。様々なものに自由に触れられる機会や、素材の豊富さもポイント
- 保育者が一人一人と丁寧に暖かく、大切にかかわっている姿⇒集団が苦手な子、できないことに引っかかってしまう子など、一人一人の保育への参加あり方を考え、全体のスケールではなく、その子その子の成長を読み取ることも重要。様々な場での発揮を保育者は受け止めていく
- 子どもたちの「やりたい」という気持ちを大切に、それが実現できる環境が整っており、そこが子どもの「わくわく」につながっている⇒ひとりひとりに「やりたい」があるので、ひとりひとりの良さを認め、クラスの中で引き出し、またそれをクラスの皆で分かち合うことを大切に。どの子ども自信をもって過ごせる保育を
- 自由(迷う・選ぶ・決める)が保証されている安心感から、子どもののびのびとした姿・発想力豊かな姿が見られる⇒保育者同士も情報を共有し、どの子どもにものびのびとした場面を生み出せるような工夫を
- 保育者の声が響きすぎず、環境の一つとしての声となっていた⇒子ども同士の楽しみや面白さの懸け橋としての役割と、そうするための空間の使い方などにも注目する

4. STEP5において整理された良さや課題並びに課題解決の方策

- 環境を活かし、クラスの垣根、学年を超えたかかわりを深め、ひとりひとりのとって“楽しい保育”を！⇒異年齢での生活の場面があるからこそ、そこ部分を強みとして楽しんでいけるように連携をとり、あそびも子ども同士共有できるようにし、継続性についても考えていく
- 子どもの「やりたい」「やる気」を大切に、安全対策(物・保育者連携)をしながら、無理をさせずにさらに遊びを深め、満足できるように寄り添っていく⇒危ないから回避ではなく、やりたいこととできることを読み取り、環境の準備

を大切に考えていく。これまでのやり方、ばかりにとらわれず、子どもの姿から読み取る

- ○○をしなければや、行事に追われるのではなく、今、楽しんでいる姿をどう読み取るのか⇒何をたのしんでいるのか？なにが面白いのか？次には何がしたいのか？を丁寧に読み取りその楽しみを深めていける環境をつくり、それぞれ遊びを保障していく。行事と子どもが生み出す遊びの両面を大切に
- 保育者もこどもの同じ目線で楽しむ心もち⇒こどもの楽しさを味わい、たのしさを共有する気持ちを大切に。大人も環境の一部であり、楽しみを感じられなければ、子どもの楽しみの理解もできない
- 目の前に見えていることばかりに気を取られるのではなく、心の中にある、それぞれの育ちを大切に気づき、受け止めていく⇒ここの思い寄り添いながら
- 一人一人の成長の違いに目を向け、どの子もクラスで必要とされていると自信を持てるように⇒行事に合わせるばかりではなく、一人一人の成長に適した行事の参加やかかわりも考える
- 子ども同士の共感・共有・共鳴 保育者同士の共感・共有・共鳴
- 子ども同士の対話、保育者と子どもとの対話 保育者同士の対話の大切さ ⇒まずは学年間での情報共有を。多数の保育者で学年を見渡すことで、子どもの遊びへの広がりへとつながる

5. まとめ(担当コーディネーターとしての感想も含)

宮前幼稚園の先生方は、自園の保育、自分の保育などを語り合う土壌が日頃からの園内研修等で培われているためにECEQに限らず、「もっと良い保育をつくるために」の視点を最初から持たれている印象が強かった。よって、各stepの時間を過ごせば過ごすほど、自分たちの考えや思いを保育者同士共有し、それを子どもの生活に持ち帰り、工夫されている姿が見られた。また一人一人の幼児の姿をそのままとらえ、幼児の持っている可能性を引き出すことの大切さにも気づかれていたようだった。

ECEQのワーク等を通じて、行事への取り組みに追われてしまうという課題を保育者が共有する中で、経験年数に関係なく、みんなも同じ悩みを持っていることや、それぞれの保育に対する思いを共有した時間が保育者同士の理解がより深まり、それが、今後の保育者間の意識の高まりにつながると感じた。今後は、さらに課題の共有やそれをみなでどう解決していくのか、など、個々の保育だけではなく、園としての保育を考える視点を持てる機会となったと思われる。

特に宮前幼稚園の恵まれた環境を再認識し、保育の中に取り入れることの大切さ、その環境から学ぶ子どもの姿に関心を高め、また保育者としてその環境をどう高めていくかの意見も聞かれた点は今後さらに宮前幼稚園の保育テーマである「わくわく」と「チーム」という視点を踏まえ、保育の質の高まりが期待される場所である。

また、おひさまこども園は新設園であり、園児が0歳～ということで、安全面を最優先に考え、その視点から研修の第一歩に取り組んでいる姿があった。安全面も大変重要な視点でもあるが、研修を進めるうちに安全面を考えつつも、子どもたちのやってみようという気持ち、楽しんでいる姿に保育者も注目し、翌日以降の環境をどう構築したらよいか、という話題にも多々触れられていた。保育園の制度上、ゆっくりと保育者皆で、研修する時間がとりにくいのが現状である。しかし、このような機会があったことで、日々の生活を丁寧に読み取る時間が取れ、保育に向かう保育者たちには大きな気づきがあったと感じた。